

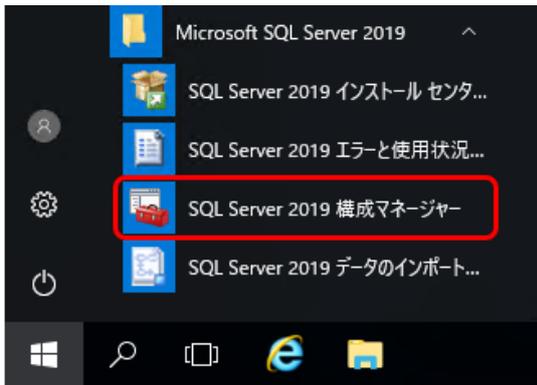
サーバー機（親機）で、TCP ポート・ファイヤーウォールの設定がされているかを確認する

目次

1) TCP ポートの設定.....1
 2) Windows ファイアウォールの設定 受信の規則3
 3) Windows ファイアウォールの設定 送信の規則9

1) TCP ポートの設定

① 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Microsoft SQL Server2019/2017/2014」 から 「SQL Server 構成マネージャー」 を選択します。

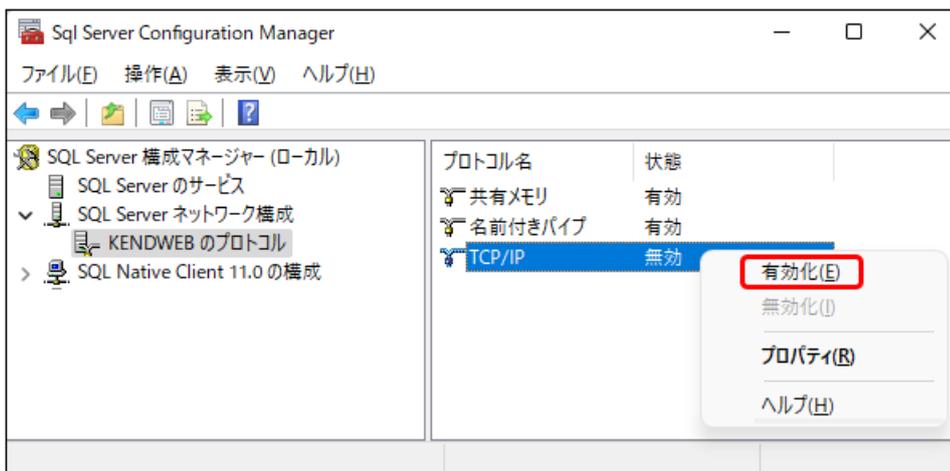


※「スタート」に「Microsoft SQL Server2019/2017/2014」が存在しない場合は、エクスプローラーから、以下パスを開いてください。

Version	Path
SQL Server 2019	C:\Windows\SysWOW64\SQLServerManager15.msc
SQL Server 2017	C:\Windows\SysWOW64\SQLServerManager14.msc
SQL Server 2014	C:\Windows\SysWOW64\SQLServerManager12.msc

② 「SQL Server 構成マネージャ」の「SQLServer2019/2017/2014 ネットワークの構成」の下の「KENDWEB のプロトコル」を左のツリーから選択して、「TCP/IP」と「名前付きパイプ」の状態が「有効」となっていることをご確認ください。

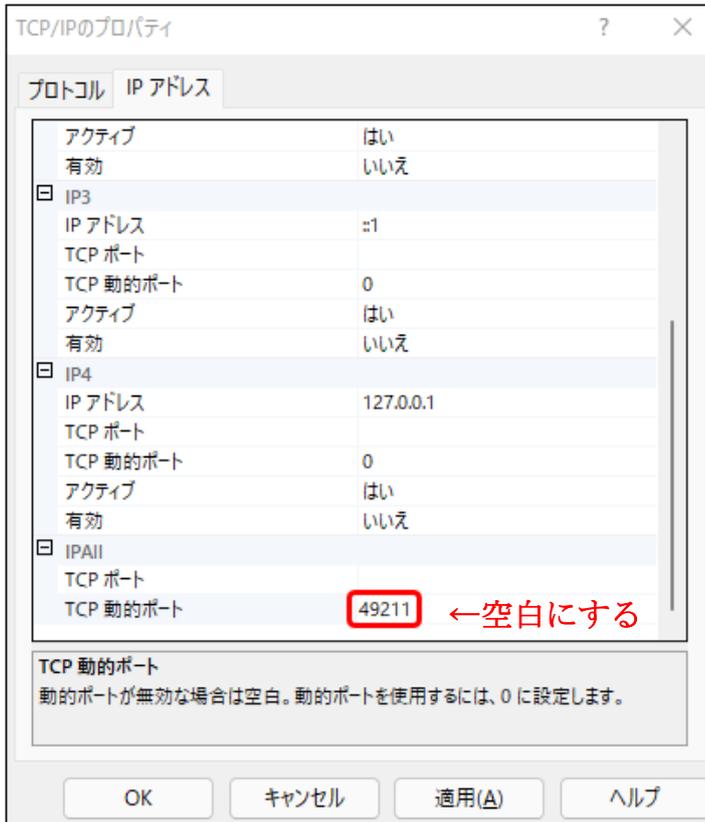
「無効」の場合は右クリックして、「有効化」を行ってください。



- ③ 右側の「TCP/IP」を右クリックして「プロパティ」を選択します。



- ④ 「IPアドレス」のタブから「IP/ALL」の「TCP 動的ポート」に数字が入っていることを確認して、その設定値を削除して空白の状態とします。



- ⑤ 「TCP ポート」に「1433」を入力して「OK」を選択します。



※ご注意※

他社の SQLServer と同居して使用する場合に、TCP1433 ポートを使用している場合がありますので、その際には 1435 などとして固定ポートを割り振る必要があります。

この場合には、以下のファイアウォールでの例外ポートの番号も同様に変更してください。
(ただし、1434 は使用しないでください。)

「TCP ポートの設定」が完了しました。

続いて「Windows ファイアウォールの設定」をご確認ください。

2) Windows ファイアウォールの設定 受信の規則

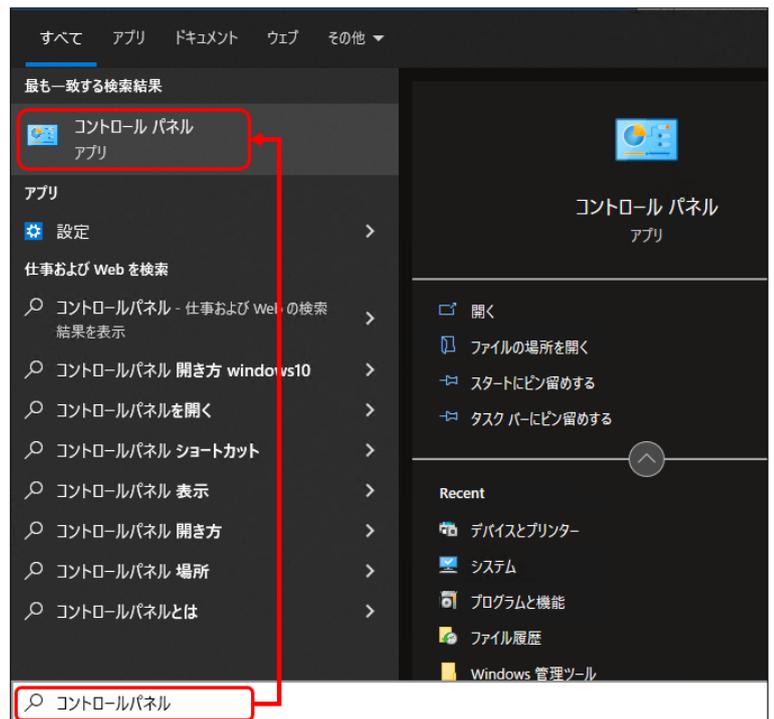
TCP ポートの設定が完了したら「Windows ファイアウォール」の例外設定が行われているかを以下の手順で行います。



ご利用しているウイルスソフト側でファイアウォールの設定をしている場合は、ウイルスソフト側で例外設定を実施してください。

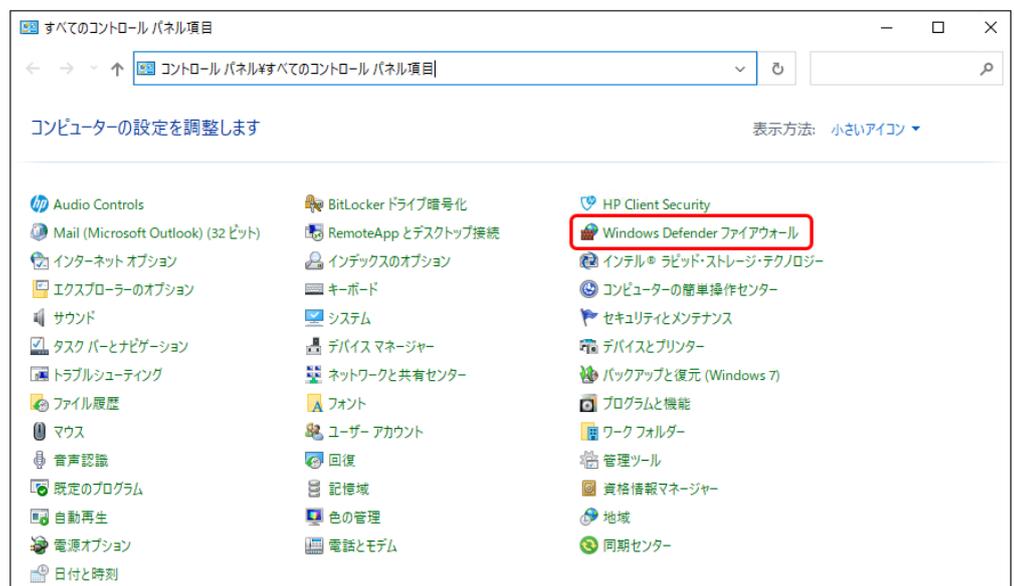
なお、ウイルスソフト側の設定に関しましては、ご購入いただいたウイルスソフト側へご確認をお願いします。

- ① 「スタート」から、「コントロールパネル」を検索して開きます。



- ② 「Windows Defender ファイアウォール」を選択します。

※WindowsServer2016/2012R2/2012/Windows8.1 をお使いの場合は、「Windows ファイアウォール」と表示されます。



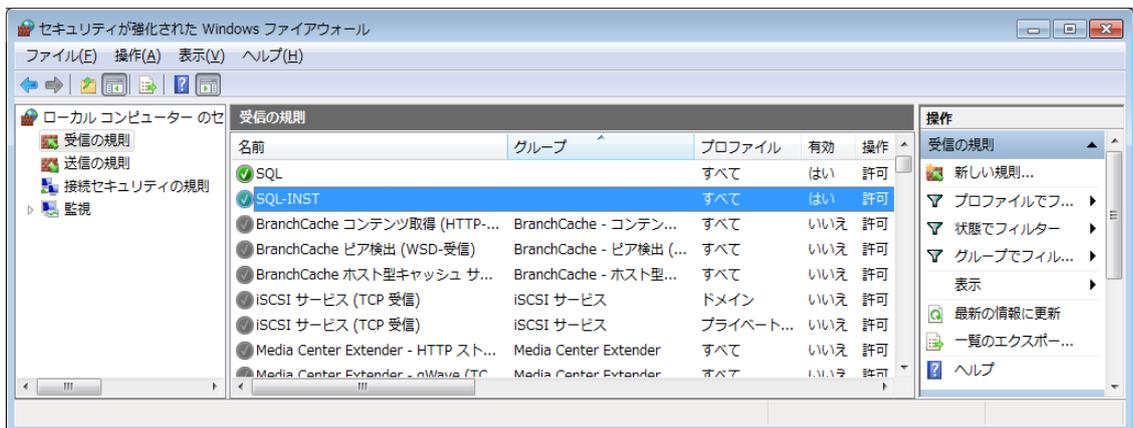
③ 「詳細設定」を選択します。



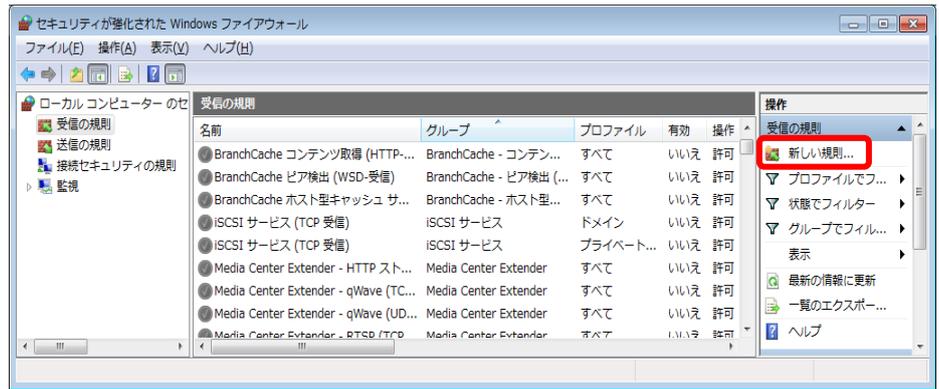
④ 右図のような画面が表示されます。
左のツリーから「受信の規則」を選択してください。



⑤ 「受信の規則」に、「SQL」「SQL-INST」が登録されているか確認してください。
登録されている場合は、「3)Windows ファイアウォールの設定 送信の規則 (p.9)」に進んでください。



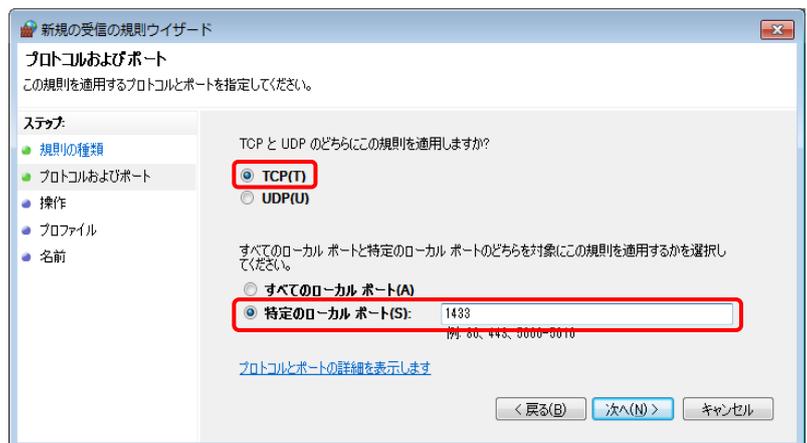
- ⑥ 「受信の規則」に、「SQL」「SQL-INST」が登録されていない場合は、「新しい規則」を選択します。



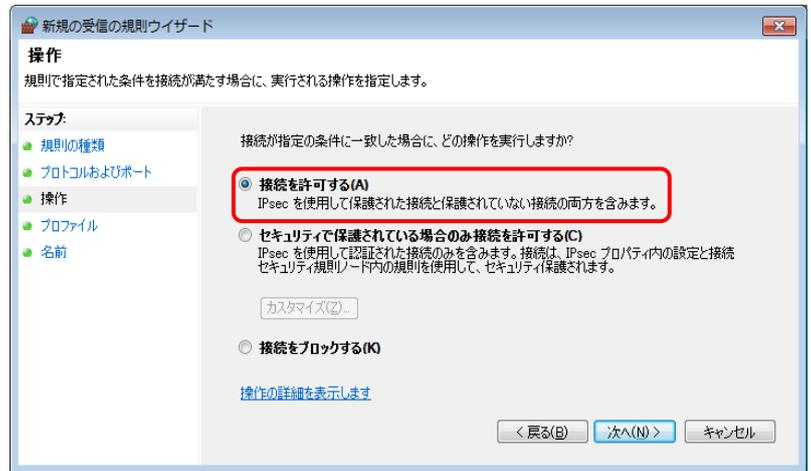
- ⑦ 【規則の種類】画面で、「ポート」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



- ⑧ 【プロトコルおよびポート】画面で、「TCP」と「特定のローカル ポート」を選択し、「[1433]」と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



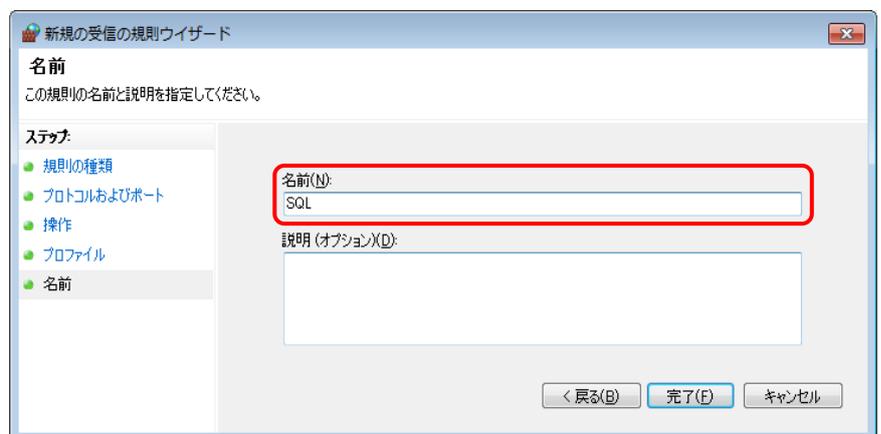
- ⑨ 【操作】画面で、「接続を許可する」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



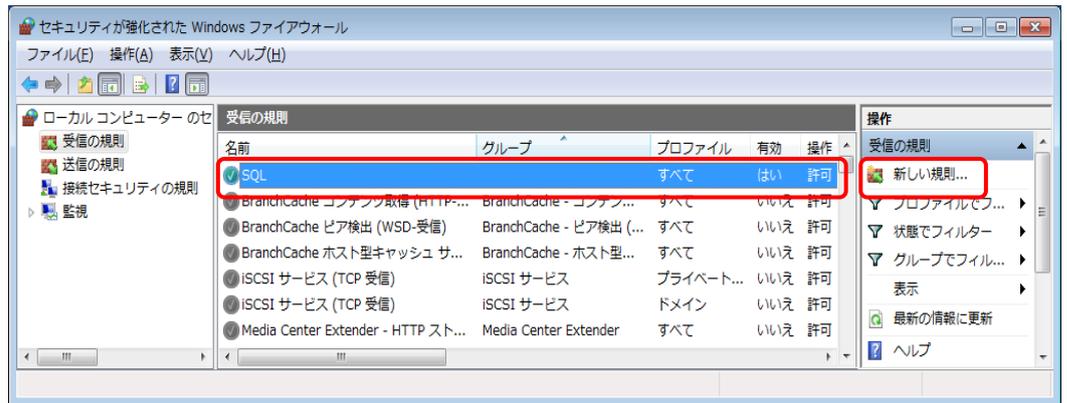
- ⑩ 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



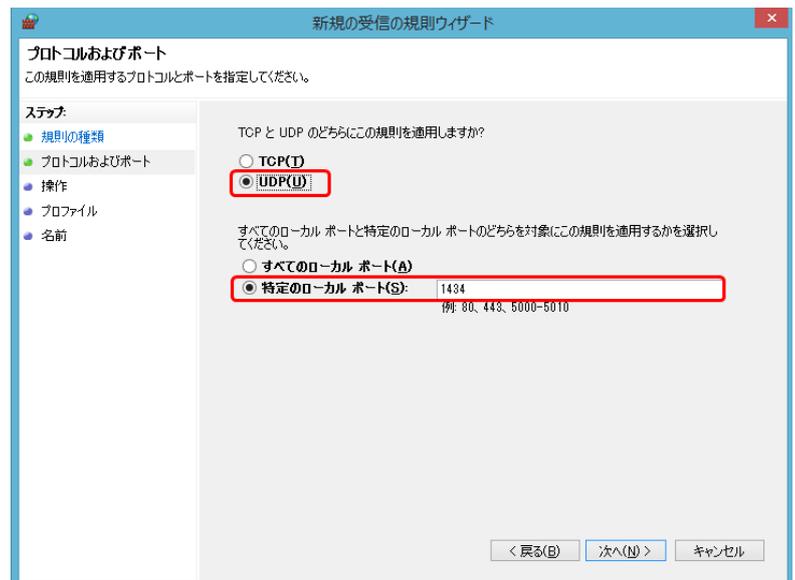
- ⑪ 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



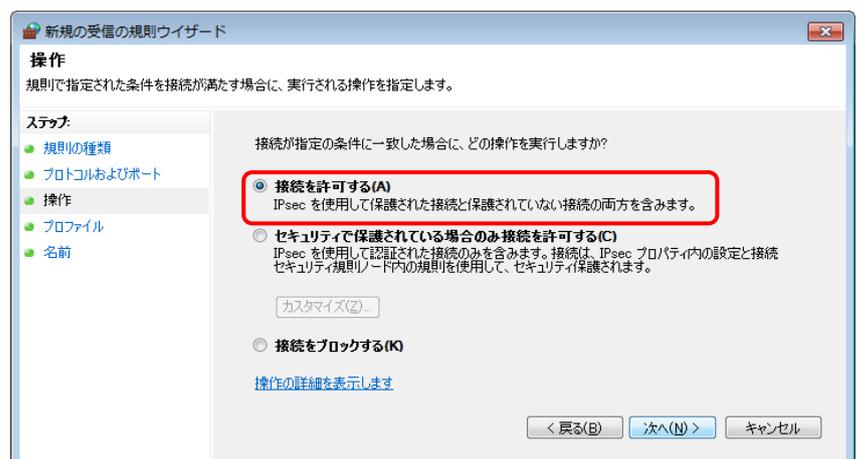
- ⑫ 新しい規則が追加されました。
 続けて、もう一度「新しい規則」を選択します。



- ⑬ 手順⑦と同じように、【規則の種類】画面で「ポート」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。【プロトコルおよびポート】画面で、「UDP」を選択し、「特定のローカル ポート」に [1434] と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



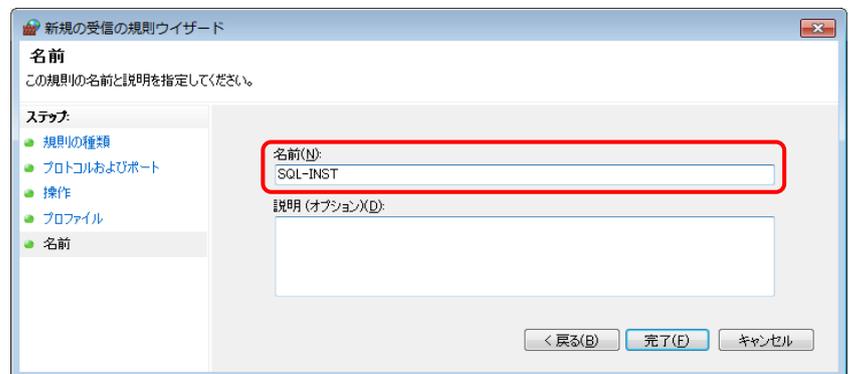
- ⑭ 【操作】画面で、「接続を許可する」を選択し、「次へ」を選択します。



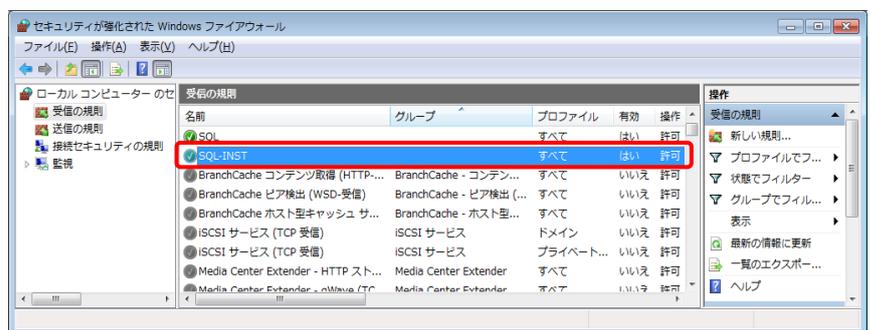
- ⑮ 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



- ⑯ 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。

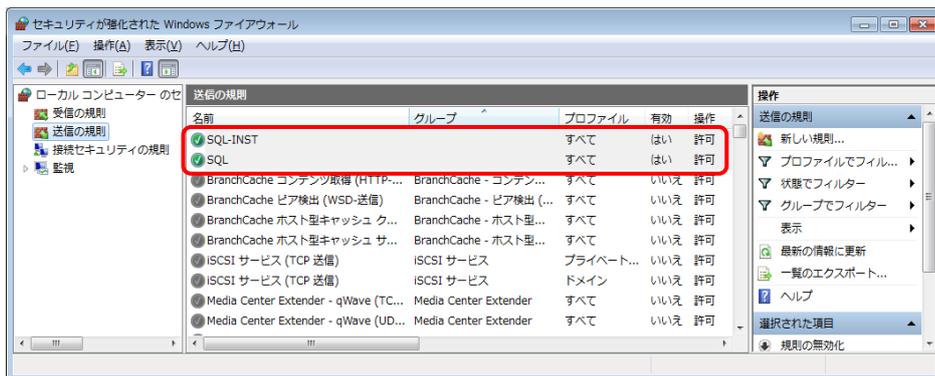


- ⑰ 新しい受信の規則が追加されました。

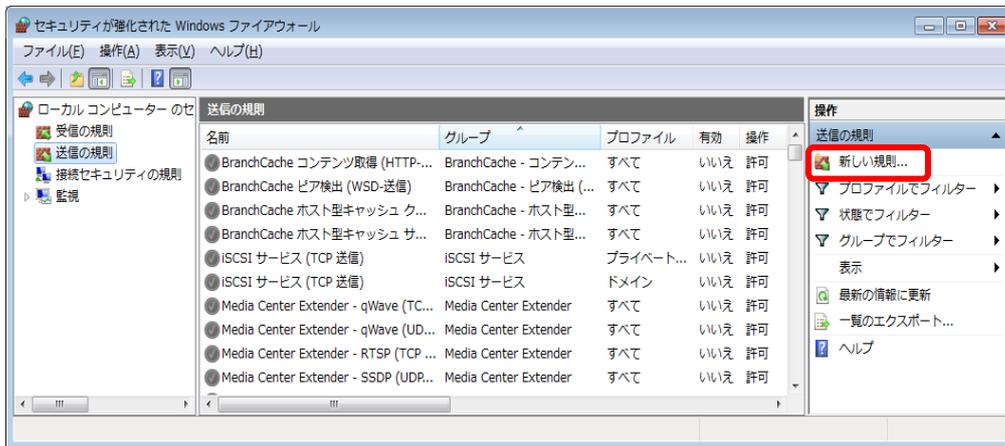


3) Windows ファイアウォールの設定 送信の規則

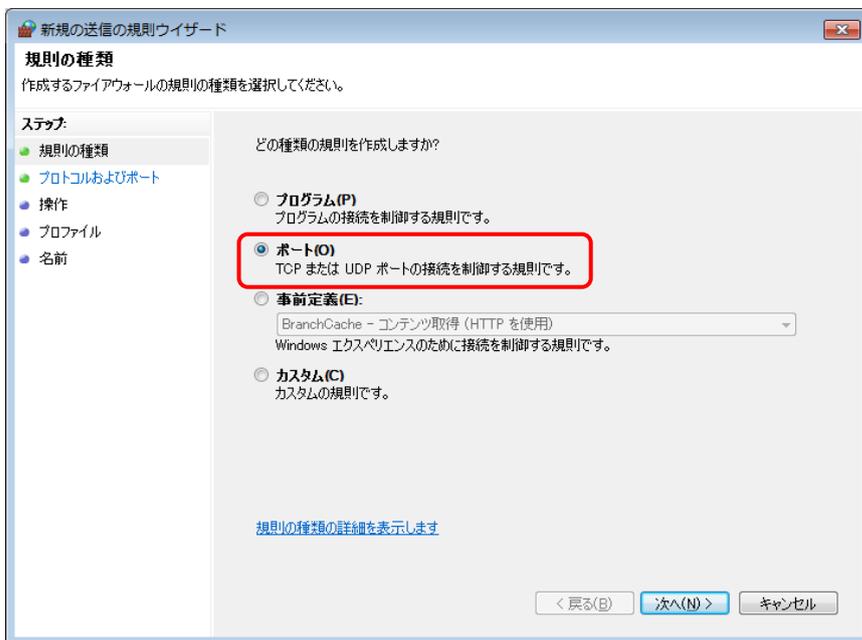
① 「送信の規則」をクリックし、「SQL」「SQL-INST」が登録されているか確認してください。



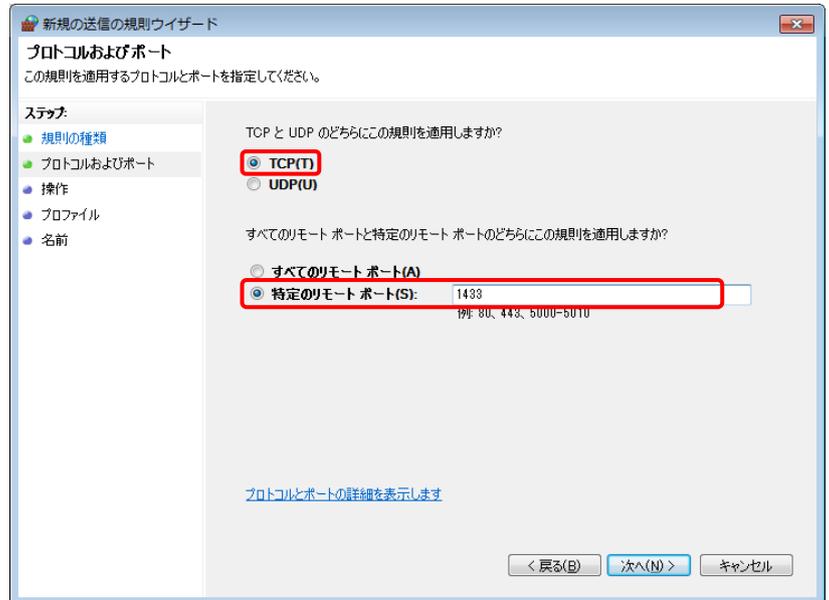
② 「受信の規則」に、「SQL」「SQL-INST」が登録されていない場合は、「新しい規則」を選択します。



③ 【規則の種類】画面で、「ポート」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



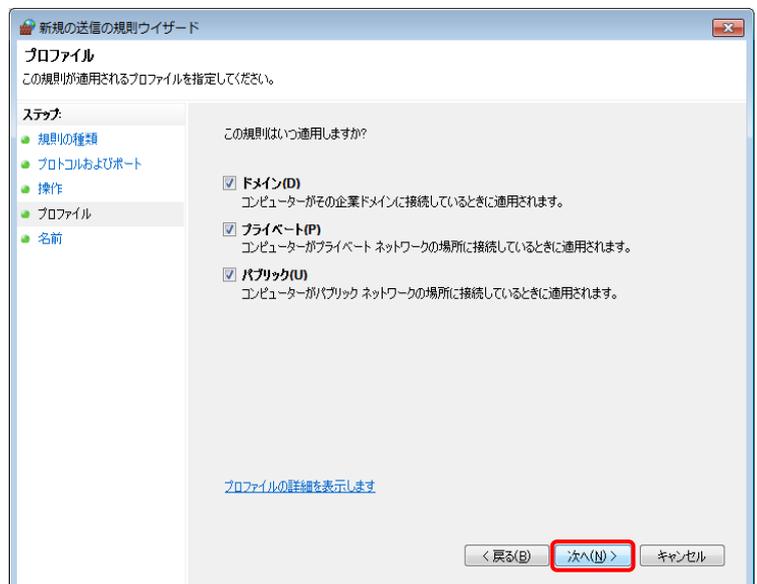
- ④ 【プロトコルおよびポート】画面で、「TCP」と「特定のローカルポート」を選択し、「1433」と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



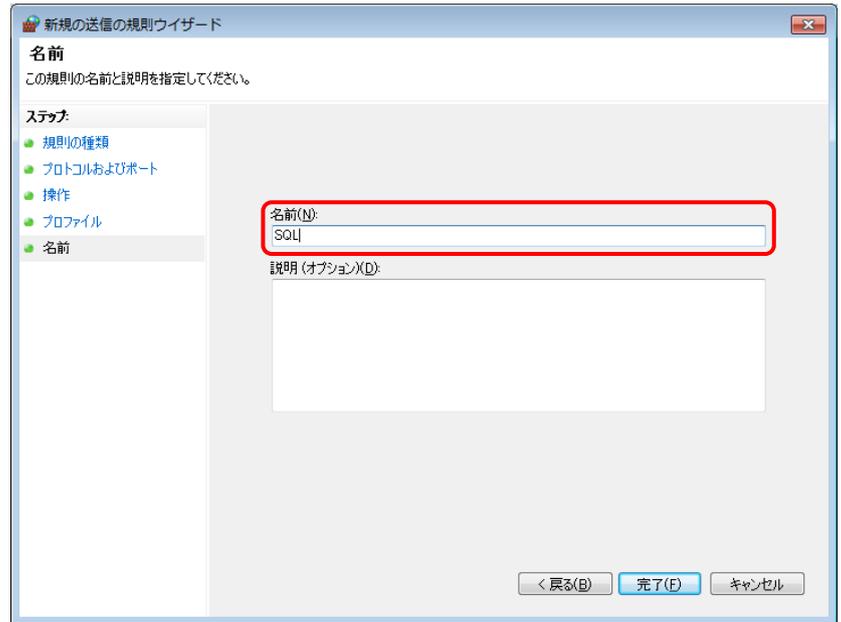
- ⑤ 【操作】画面で、「接続を許可する」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



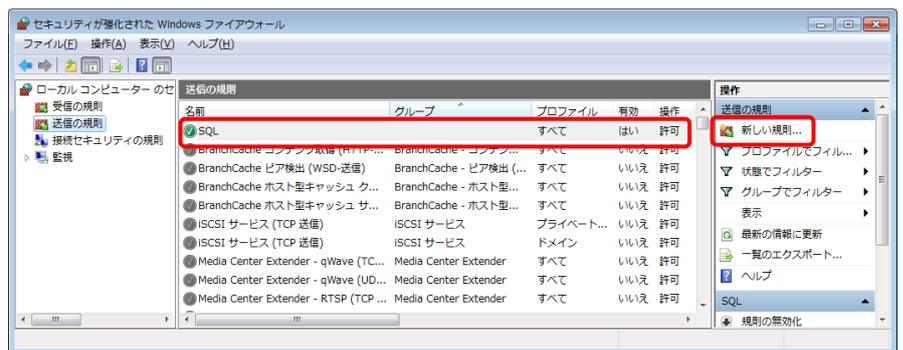
- ⑥ 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



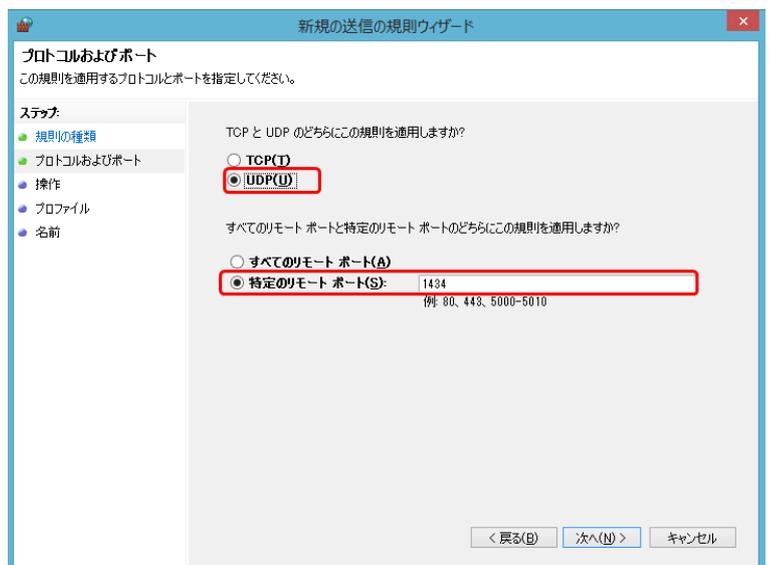
- ⑦ 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



- ⑧ 新しい規則が追加されました。続けて、もう一度「新しい規則」を選択します。



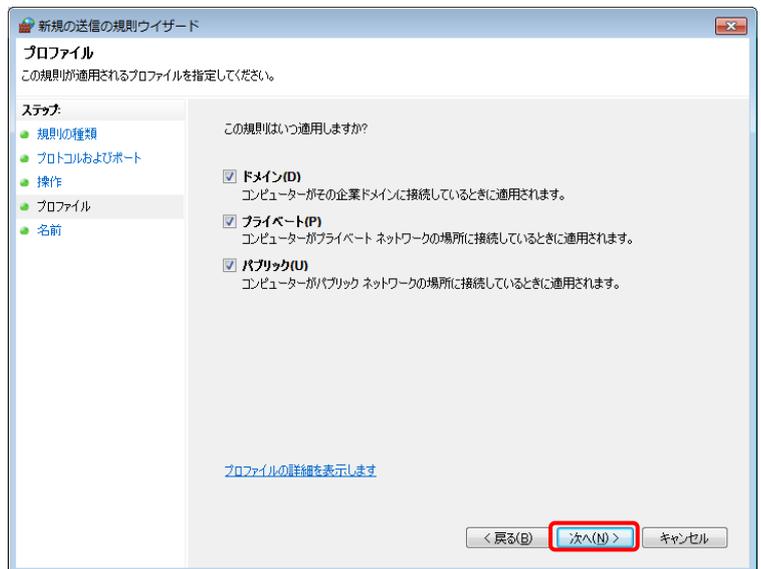
- ⑨ 手順③と同じように、【規則の種類】画面で「ポート」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。【プロトコルおよびポート】画面で、「UDP」を選択し、「特定のローカルポート」に「1434」と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



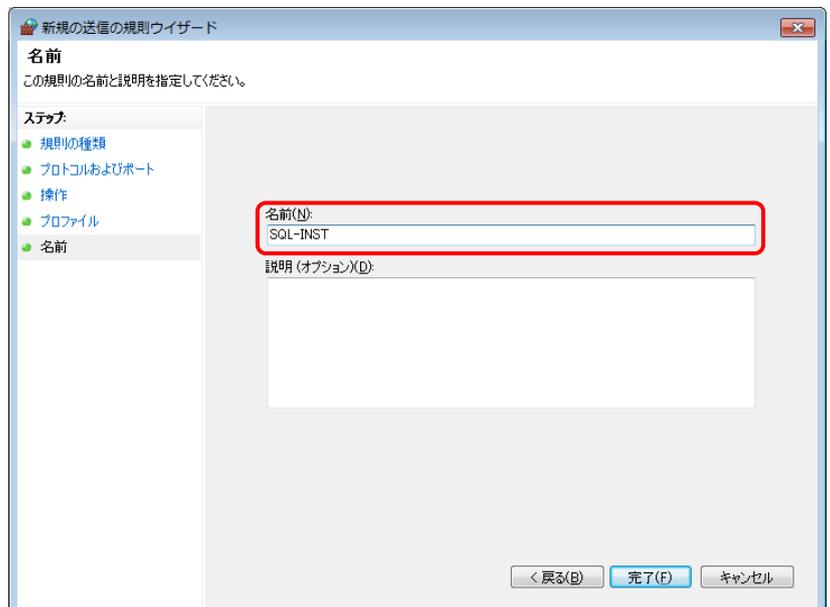
- ⑩ 【操作】画面で、「接続を許可する」を選択し、「次へ」を選択します。



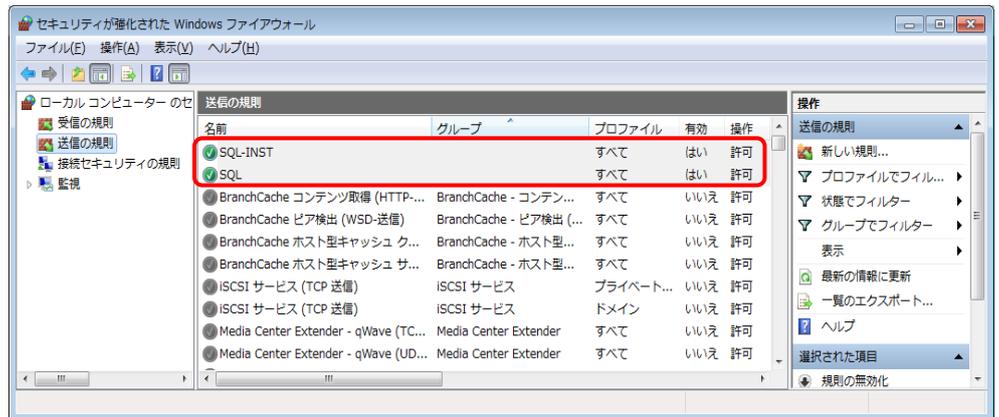
- ⑪ 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



- ⑫ 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



- ⑬ 新しい送信の規則が追加されました。これで TCP ポートおよび Windows ファイヤーウォールの例外設定が完了しました。どっと原価 NEO シリーズが起動するかご確認ください。



以上